

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月5日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320104

研究課題名（和文）アジア圏英語学習者国際コーパスネットワークの構築による多層的中間言語対照分析

研究課題名（英文）Multi-layered Contrastive Interlanguage Analysis Based on the Newly Compiled Corpus of Asian Learners of English

研究代表者

石川 慎一郎（Shin' ichiro ISHIKAWA）

神戸大学・国際コミュニケーションセンター・准教授

研究者番号：90320994

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトは、アジア圏英語学習者の統制英作文を収集した大型英語学習者コーパス（International Corpus Network of Asian Learners of English：ICNALE）を構築し、言語教育学・英語学・日本語学・心理言語学・統計学をはじめとする関連分野の知見を統合しつつ、アジア圏英語学習者の中間言語使用特性を多角的に分析・解明することを目標とするものであった。

3年間のプロジェクトを経て、最終的に、アジア圏10か国・地域および英語母語使用国において合計130万語のデータ収集が完了し、ICNALEは現時点において世界最大のアジア圏学習者コーパスとなっている。収集したデータはダウンロード版のほか、オンライン版（ICNALE Online）で公開し、現在まで、世界20か国・地域以上において多様な研究で利用されている。また、構築したコーパスを用い、各国学習者の高頻度語・助動詞・ly副詞・接続語・ディスコースマーカの使用の研究を行い、プロジェクト期間中に著書10冊（うち単著1冊）、論文13本（うち査読7本）、招待講演・研究発表41本の成果発表を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：The aim of the current research project was to compile a sufficiently large corpus of controlled essays written by varied learners of English in Asia and to identify characteristic features in interlanguage uses by learners. In the process of data analysis, we aimed to utilize findings in varied related fields including TESOL, English and Japanese linguistics, psycholinguistics, and statistics.

As a result of the three-years-project, we have finally collected approximately 1.3 million words of essays in ten countries and areas in Asia as well as in several countries where English is used as a native language. The ICNALE is now the largest corpus of Asian learners of English. The collected data is made publicly available both in a download version and in an online version, which is called The ICNALE *Online*. The data has been used to date for varied research purposes in more than twenty countries and areas in the world. Also, based on the corpus data, we have analyzed the features of learners' use of high-frequent words, modal verbs, -ly adverbs, conjunctions, and discourse markers. We have published ten books (one of which is single-authored), thirteen papers (seven of which are peer-reviewed), and made forty-one invited speeches and academic presentations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2011年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2012年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
総計	12,900,000	3,870,000	16,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：学習者コーパス、統制作文、中間言語、アジア圏学習者、対照分析

1. 研究開始当初の背景

英語学習者の言語運用を科学的に分析する

上で、学習者コーパスは不可欠なものである。西欧においては、International Corpus of Learner English (ICLE) などの大型コーパスが存在していたが、アジア圏にはそれと比肩しうる大規模学習者コーパスは存在していなかった。アジア圏においても学習者のデータを国際的に収集し、この欠落を埋める必要性が広く認識されていた。

2. 研究の目的

本プロジェクトでは、アジア圏英誌学習者の統制英作文を収集した世界最大級の英語学習者コーパスとして、International Corpus Network of Asian Learners of English (ICNALE) を構築し、言語教育学・英語学・日本語学・心理言語学・統計学をはじめとする関連分野の知見を統合しつつ、アジア圏英語学習者の中間言語使用特性を多角的に分析・解明することを目標とする。

3. 研究の方法

研究の推進にあたっては、中間言語の国際比較研究資料として信頼に足るデータの質を担保するため、既存の学習者コーパスと比べても、とくに厳しいデータ統制的な収集ルールを策定した。そのうえで、アジア圏 10 カ国・地域、また、英米圏において大規模なデータ収集を行った。収集したデータはダウンロード版とオンライン版で公開した。その後、収集したデータに基づき、様々な文法特性に注目して、学習者言語の特性解明を行った。

4. 研究成果

本プロジェクトの研究成果は下記にまとめられる。

(1) アジア圏 10 カ国・地域および英米圏で 130

万語のデータを集め、世界最大のアジア圏国際英語学習者コーパスとして公開したこと。

(2) 高頻度語・助動詞・ly 副詞・接続語・ディスプレイコースマーカーなどに注目して、各国学習者の中間言語の使用状況を記述的に分析したこと。

(3) 大型の国際シンポジウムを企画・開催し、アジア圏内における学習者コーパス研究の活性化の一助となったこと。



図：ICNALE Online

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

① 石川慎一郎, Writing, Rewriting, Proof Writing: 学習者コーパスに基づく修訂効果の計量的研究, 中部地区英語教育学会紀要, 41, 249-256, 2012 (査読有)

② Ishikawa Shin'ichiro, A corpus-based study on Asian learners' use of English linking adverbials, *Themes in Science and Technology Education*, 3(1-2), 139-157, 2011 (査読有)

③ Ishikawa Shin'ichiro, Duality in the Spelling of English Verb Suffixes -ize and

-ise: A Corpus-based Study, *International Proceedings of Economics Development and Research*, 26, 390-396, 2011 (査読有)

④石川 慎一郎/魏 強, L1 語彙の音韻処理と意味処理, *Language Education & Technology* (外国語教育メディア学会), 47, 227-242, 2010 (査読有)

(ほか)

[学会発表] (計 41 件)

①石川慎一郎, アジア圏英語学習者国際コーパスネットワーク ICNALE を用いた域内学習者別言語使用傾向の抽出とその教育的応用, 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院講演会「計量的言語研究の諸相」, 2012/9/19, 北海道大学 (招待講演)

②Ishikawa Shin' ichiro, A New Horizon in Learner Corpus Studies: The Aim of the ICNALE Project, ICTATLL2011 International Conference, 2011/9/21, Kohn Khaen Princess Hotel, Thailand (招待講演)

③Ishikawa Shin' ichiro, Englishes in Asia: What ICNALE Corpus tells us, 日本「アジア英語」学会第 28 回全国大会, 2011/7/2, 京都外国語大学 (招待講演)

④石川慎一郎, 大規模日本語コーパスから得られた言語データの処理 —統計手法をどう生かすか—, 国立国語研究所「コーパス日本語学の創成」研究発表会, 2011/6/4, 国立国語研究所 (招待講演)

⑤Ishikawa Shin' ichiro, Interlanguage of the Asian Learners of English: Standards in L2 Acquisition Inaugural, APEC- RELC International Seminar, 2010/4/19, RELC, Singapore (招待講演)

[図書] (計 10 件)

①Ishikawa Shin' ichiro 他全 17 名, *Learner Corpus Studies in Asia and the World* Vol. 1, Kobe University, 全 300p, 2013

②石川慎一郎, 『ベーシックコーパス言語学』, ひつじ書房, 全 275p, 2012

③Ishikawa Shin' ichiro 他全 22 名, *Research on Phraseology in Europe and Asia: Focal Issues of Phraseological Studies* Vol. 1, University of Bialystok Publishing House (Poland), 全 437p, 2012

④石川慎一郎他全 3 名, 『日本語教育のためのコーパス調査入門』, くろしお出版, 全 233p, 2012

⑤石川慎一郎他全 30 名, 『21 世紀英語研究の諸相: 言語と文化からの視点』, 開拓社, 全 568p, 2012

⑥Ishikawa Shin' ichiro 他全 9 名, *Phraseology, Corpus Linguistics and Lexicography*, Kwansai Gakuin University Press, 226p, 2011

⑦Ishikawa Shin' ichiro 他全 17 名, *Corpora and Language Technologies in Teaching, Learning and Research*, University of Strathclyde Publishing, 全 151p, 2011

⑧ Ishikawa Shin' ichiro 他全 22 名, *Corpus, ICT, and Language Education*, University of Strathclyde Publishing, 246pp, 2010

⑨ 石川慎一郎 他全 7 名, 『言語研究のための統計入門』, くろしお出版, 281pp, 2010

⑩ 石川慎一郎 他全 18 名, 『英語教育学大系 8: 英語研究と英語教育』, 大修館書店, 278p, 2010

[その他]

ホームページ等

<http://language.sakura.ne.jp/icnale/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 慎一郎 (Shin' ichiro ISHIKAWA)

神戸大学・国際コミュニケーションセンター・准教授

研究者番号 : 90320994

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :